

H29年度「ともの家」事業計画

1. はじめに

昨年7月26日、神奈川県相模原市「津久井やまゆり園」において、元職員による凄惨な大量殺傷事件が起き、19名の大切な命が奪われました。障がいのある仲間たちや家族の不安と恐怖、社会に衝撃を与えたこの事件は、障害者虐待防止法、障害者差別解消法が施行されて間もない時期に起きてしまいました。

容疑者の独特な思想がどこで培われてしまったのか、保護者はなぜ匿名報道を望むのか、命の失われた現場で事件後もそこで暮らしている仲間たちのこと、神奈川県が打ち出した現在の場所での同レベルの新施設構想、福祉現場の問題だけでは済まされない、社会のあり方と繋がっています。

障がいのあるなしに関係なく「ひとりひとりの生命を大切に、安心安全な暮らしが守られること」これこそがみんなのねがいです。私たち職員は、障がい分野の制度理解のための研修や支援技術の向上に努めることはもちろん、もっと広い視野を持つ力を身につけ、仲間やその家族、法人関係者の皆様に、その時々の問題を提起し、一緒に考え意見交換できる機会を作りたいと思います。

2. 事業全般

障害者自立支援法施行後10年が経過しました。規制緩和による民間参入や契約制度は、想像以上に、周囲の意識を変化させました。事業所は事業展開や拡大を目指し、利用者や家族は、サービスを利用しないと損をすると思われ、事業所を転々としています。福祉現場のあり様が、大きく変化しました。

再度、障がいのある人たちの地域での暮らし、働くこと、相談ごとに密接にかかわり寄り添った支援を継続する為に、事業理念や方向性について、思いをひとつにしなくてはなりません。

財務状況については、日割り単価方式による、不安定要因は続いています。仲間のニーズと職員体制が整えば、月1回のペースで土曜日開所を開始し、収入増に繋がればと考えています。支出面は、グループホーム「SUN」とパンと焼き菓子のお店「tomo」の借入金返済は計画通り進め、繰越金が発生した場合は、施設修繕のための費用として、各部署で積み立てていきます。

職員給与は処遇改善費分を基本給に組み入れ、処遇改善に努めます。

28年度より開始した、災害対策と、職員のスキルアップの関しては、昨年同様に、重要課題として位置づけます。特に今年は2名の新規採用者がおり、基礎知識を学ぶ大切な期間です。他の職員は、再確認の意味で、新規採用者と共に、研修を充実させます。

計画相談の事業については、保護者からの要望も高いため、時期を見極めながら、開所に漕ぎつけたいと思います。

3. パンと焼き菓子のお店「tomo」 就労継続 B 型事業

<支援目標>

仕事を中心とした生活の基盤を組み立て、自己決定していく。

- ・作業内容を工夫し任せられる仕事を増やす
- ・仲間意識を持ち、協力し合うことで仕事の効率化を図る
- ・作業時間を増やし、給料アップに繋げる
- ・仲間主体の余暇活動を行う
 - 毎月の給料袋から直接積み立てし、年度末に仲間が起案して慰安旅行へ行く
- ・爪、髪の毛、白衣、手洗い等、家庭の協力のもと、衛生管理には十分留意する
- ・災害への意識を持ち、毎月防災訓練を行う

<目標達成のために職員が行うこと>

- ・毎日ミーティングを行い、職員の共通意識を高める
- ・作業方法、経営方針（お店の経営）の意思統一のために、1階と2階の職員全体会議を定期的に行う
- ・勉強会、研修会に参加し支援の質の向上を図る

4. ピース 生活介護事業

<支援目標>

健康に留意し、作業と活動の中で、伸び伸びと自分らしさを発揮できる環境に配慮する。

今日の充実が明日に繋がるような支援をする。

- ・作業、活動、身体ケアのバランスに留意
- ・仲間たちが主役になる日中活動を組み立てる
- ・仲間たちの思いに添える支援（間を取り、見る聴くことの重要性を認識する）
- ・1日の充実を認め合い、明日への期待とともに、作業活動の確認を行う（終礼）
- ・五感を刺激し、幅広く豊かな生活を営む
- ・防災訓練を定期的に行い、災害への意識を重ねていく

<目標達成のために職員が行うこと>

- ・日中活動の評価と反省
- ・翌日の活動把握と準備、意思統一
- ・職員の意識や質を向上させるための、ミーティングや勉強会、研修に参加する
 - 職員を2つのグループに分け、少人数のグループワークを行い、話しやすい環境を作り、内容を充実させる

5. グループホーム「とも」「SUN」

<支援目標>

健康に留意し、家庭的な雰囲気の中で、仲間たちがホッと出来る生活の場所として充実させていく。

- ・自分らしい生活を側面から支援する
 - “できること”に共通認識を持ち、理解し統一していく
 - 声かけのタイミング、見守り等の支援の質と量に留意する
 - 仲間同士の繋がりを大切に見守る
 - 仲間ミーティングの実地
- ・健康状態の把握
 - 起床時、帰宅時、入浴前、就寝時の表情や動きに留意し、場合によっては検温を行う
 - 日中活動の場との連絡調整
- ・保護者との連絡調整
 - 服薬の確認
 - 帰省後の受け入れ時など、保護者より伝達を受ける
- ・防災訓練の実施
 - 年間計画を立て、世話人リーダーが行い、課題も含め、防災責任者に報告する

地域で当たり前暮らしていることを周囲の方々に認知してもらえるように、地域行事に参加していく。

- ・各地で開催される行事への参加
- ・防災訓練や地域清掃への参加
- ・組長さんと繋がる
- ・ピンカンの当番

休日活動の充実

保護者の高齢化により、帰省や通院が困難な場合の対応を検討していく。

- ・「SUN」の帰省を毎週土曜日から日曜の夕方とし、高齢の保護者の負担を軽減していく
- ・その都度の対応になるが、出来る限り支援していく

<目標達成のために>

- ・世話人会議を定期的開催し、仲間への関わりを共有する。
- ・研修参加